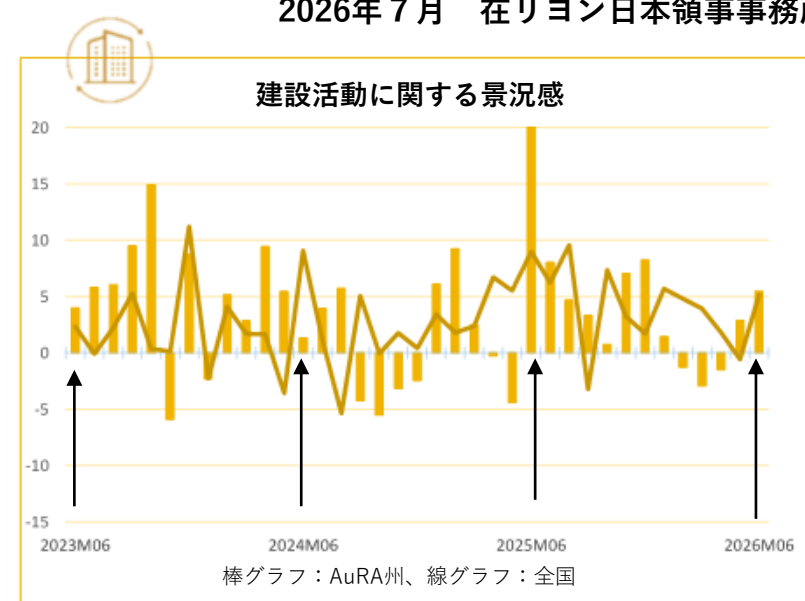
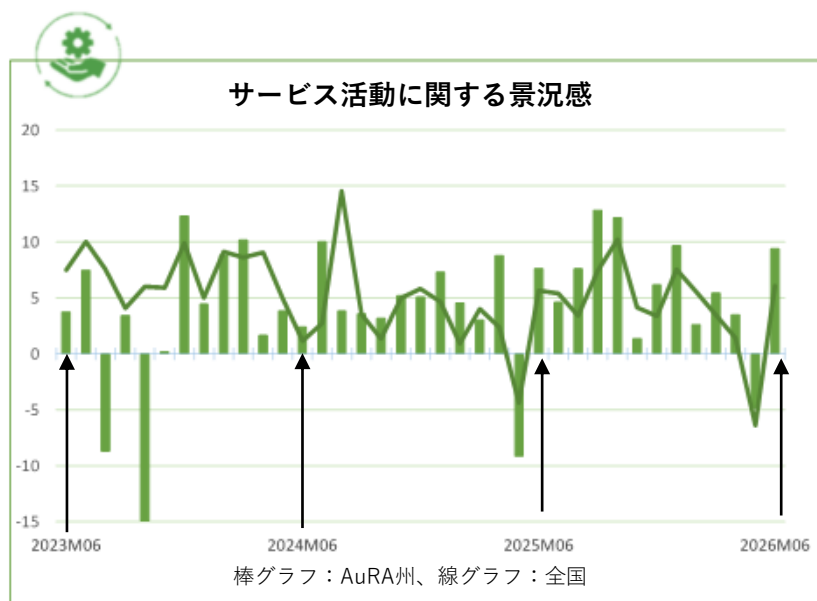
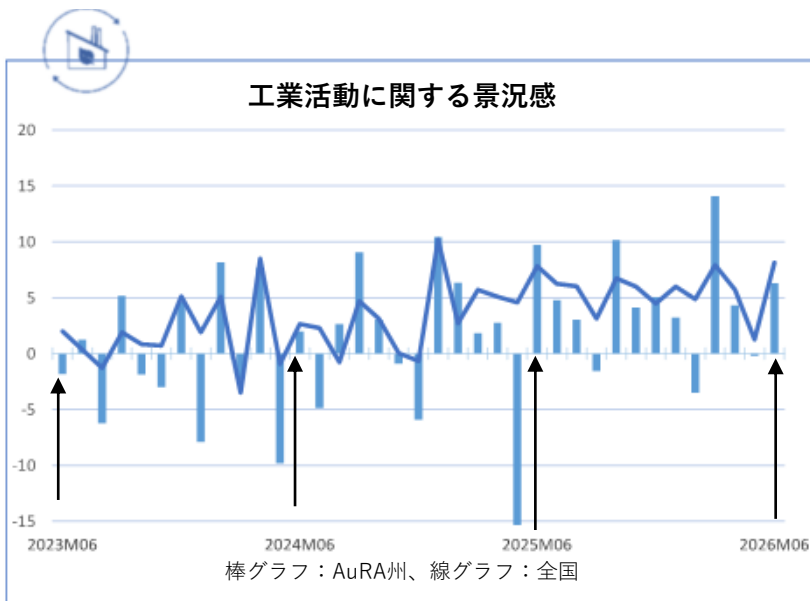


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年 6 月）

2026年 7 月 在リヨン日本領事事務所

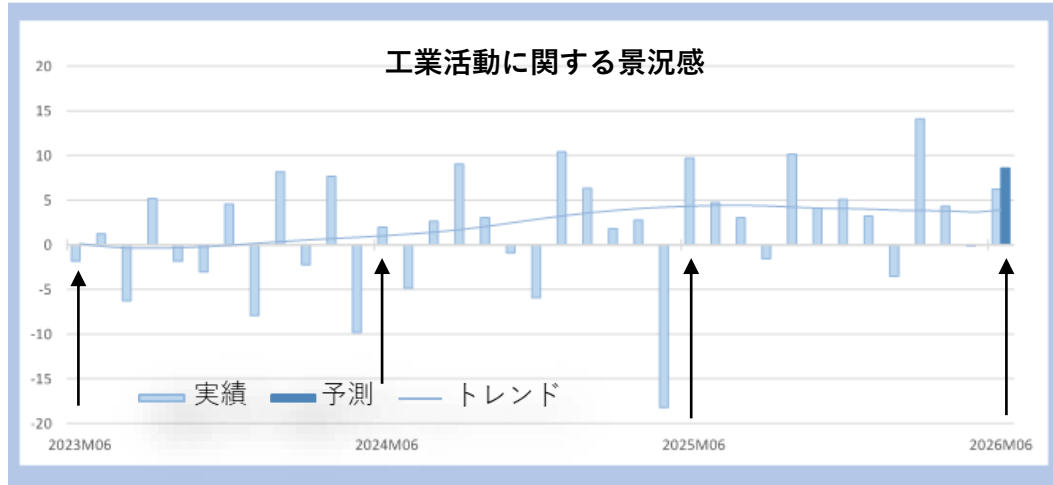


ポイント

- **工業部門**：6月の景況感は、低調だった5月を経て持ちなおした。設備稼働率は再び上昇し、2023年7月以降で最も高い水準となった。原材料価格の上昇が続いているが、これを最終顧客に転嫁できておらず、企業の利益率を圧迫している。短期的には更なる価格引き上げが検討されている。受注は引き続き堅調。受注残が増加したことから、7月も好調が維持される見通し。
- **サービス部門**：5月に景況感の悪化がみられた後、全国レベルでもAuRA地域圏においても景況感は回復した。この傾向は、飲食セクターを除き、全てのセクターにみられる。雇用は横ばい。価格は上昇しており、特に貨物道路輸送セクターにおいて顕著だった。短期的には需要は鈍化し、事業活動の縮小が予想される。
- **建設部門**：全国と同様にAuRA地域圏においても景況感は改善した。基礎工事では熱波の影響もあり景況感が明らかに悪化した一方で、内装工事では改善した。第2四半期でみると、基礎工事では景況感は引き続き悪化。競争が激化する中、見積価格は引き続き下落傾向にあるが、内装工事については資材価格の上昇分を部分的に転嫁した。基礎工事や公共工事の受注残は依然として大幅に少ない。そのため、関係者は短期的には事業活動は縮小するとみている。
- 資金繰りの状況は、工業部門では全体的に安定したが、サービス部門、特にIT関連や外食セクターで悪化した。

- ・ フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年6月26日～7月3日）。
- ・ 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

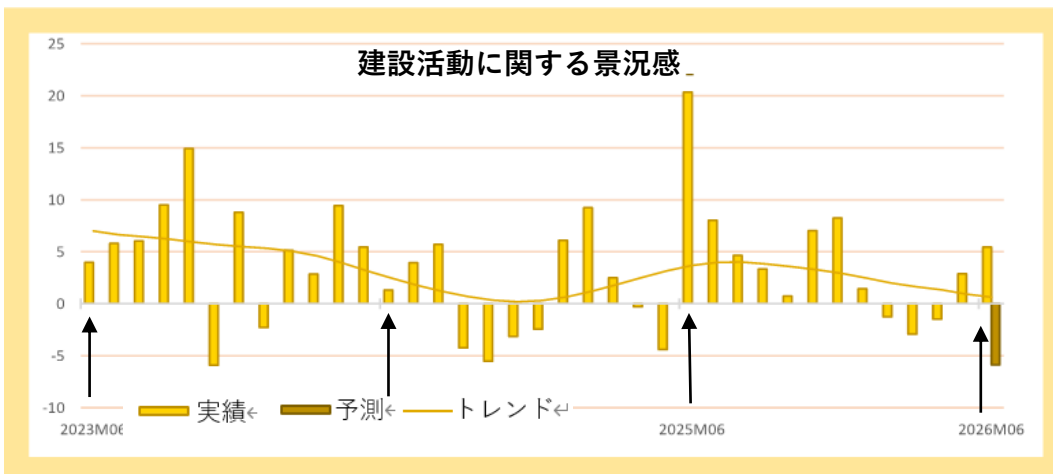
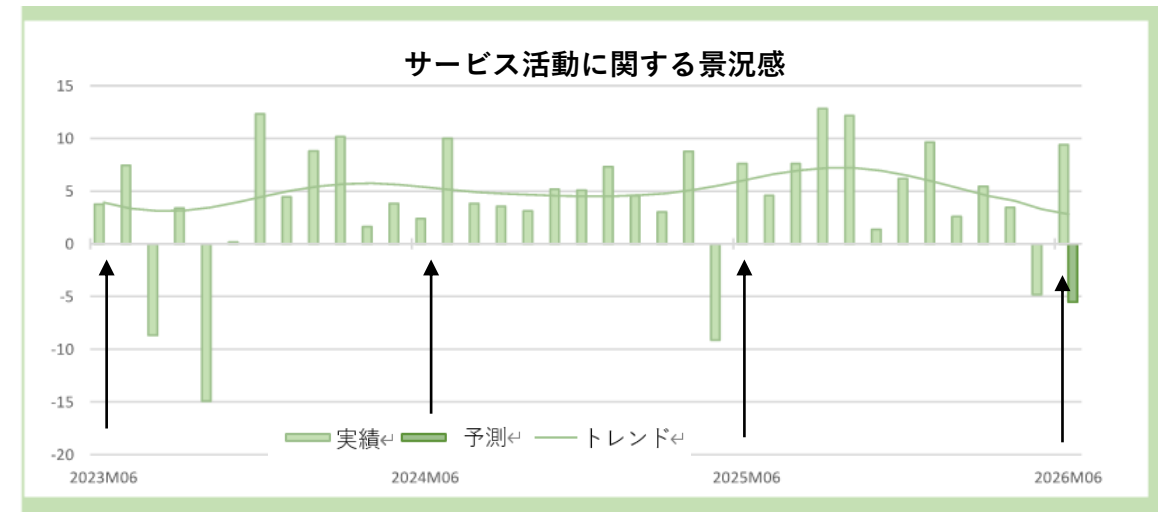
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年6月） ：実績、翌月の予測、トレンド



工業部門の景況感は5月は祝日の影響で横ばいだったが6月は改善した。全セクターで改善がみられたが、ゴム・プラスチック製品と医薬品製造セクターで悪化したほか、食品・飲料業及びその他の製造業ではほぼ横ばいだった。雇用はわずかに減少。原材料価格の上昇は早いペースで続き、販売価格に部分的に転嫁された。7月には更なる値上げが予定されている。新規受注は好調だった。受注残高は予想どおり。経営者による見通しは楽観的で、今後数週間は事業は好調と見込まれる。



サービス部門では6月に景況感と需要が持ち直した。この傾向は、客足が減少した飲食セクターを除き、全てのセクターで見られた。雇用は横ばいであり、販売価格は再び上昇した。特に、貨物道路輸送、宿泊、IT関連セクターで顕著だった。7月については、経営者は慎重な姿勢を示しており、ほとんどのセクターで事業活動の縮小が予想される。



6月の建設部門の景況感は改善した。基礎工事では猛暑の影響もあり景況感は明らかに悪化したものの、内装工事では改善傾向が加速した。公共工事では引き続き急速なペースで悪化。公共工事の見積価格は大幅に下落し、基礎工事では横ばいとなった一方、内装工事では資材価格の上昇分を反映し、価格が上昇した。公共工事や基礎工事の受注残が減少していることを踏まえ、関係者は慎重な見方を示しており、短期的には事業活動の更なる縮小が見込まれている。